市立小樽文学館企画展

テレビとマンガにクギヅケだった。——

シナリオライター・石山透と少年たちの60年代

主催　市立小樽文学館
後援　小樽文學舎
協力　宮澤英子
旭川市中央図書館
旭川・アトムの会
北海道立図書館
株式会社手塚プロダクション
株式会社小学館クリエイティブ

イラストレーション・宮澤英子

ギャラリートーク

「ふしぎな少年」と手塚治虫

テレビとマンガにおける

SF 時代の夜明け

黒沢哲哉（著作家・編集者）

2019 年 **4 月 13 日**（土）

午後 6 時より

企画展会場　入場無料

2019 年 3 月 23 日（土）～

5 月 12 日（日）

月曜（4 月 29 日・5 月 6 日を除く）・5 月 7 日～ 10 日休館

市立小樽文学館

〒047-0031 小樽市色内 1-9-5

tel.fax.0134-32-2388（日本銀行旧小樽支店金融資料館向かい）

入場無料（市立小樽文学館無料スペースにて展示）

市立小樽文学館企画展

テレビとマンガにクギヅケだった。——シナリオライター・石山透と少年たちの60年代

小樽出身のシナリオ作家石山透（1927–1985「タイム・トラベラー」「新八犬伝」「プリンプリン物語」など）の初期の代表作「ふしぎな少年」（1961年4月3日から翌年3月31日までNHKで放送されたテレビドラマ。原作手塚治虫）関連の資料を展示します。

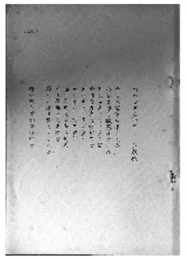
「ふしぎな少年」は、ふとしたことから、時間を止めるという超能力を身につけた少年の、奇妙な体験と冒険を描いたSFサスペンスです。時間や四次元という概念の科学的なアプローチも試みられた意欲的な作品で、特撮技術も未熟だった初期のテレビドラマであり、スタッフの苦心により数々の画期的な工夫もなされました。

石山透としては、後の「タイム・トラベラー」「プリンプリン物語」につながるSFファンタジーであり、科学的知見に裏打ちされた手塚治虫の繰り出すイメージに触発された作品でもあります。

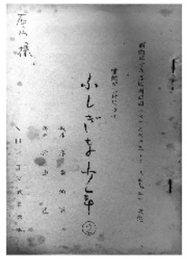
おもな展示資料は、「ふしぎな少年」第1回台本（石山透旧蔵）、手塚治虫原作マンガが連載された『少年クラブ』（1961年4月号～1962年12月号）など。

2019年は手塚治虫（1928–1989）の没後30年に当たり、その代表作や、北海道にゆかりの深い「シュマリ」「火の山」収録本などもあわせて展示します。

前衛劇団「感覚座」時代の石山透（中央・1950 年頃）



連続テレビドラマ「ふしぎな少年」
第 1 回台本末尾に記された主題歌。
作詞・石山透、作曲・内藤法美



原作・手塚治虫　脚色・石山透
連続テレビドラマ「ふしぎな少年」
第 2 回台本（石山透旧蔵）
1961 年 4 月 4 日放送

手塚治虫

マンガ家。1928 年 11 月 3 日大阪府豊中市生まれ、幼少期を兵庫県宝塚市で過ごす。大阪帝国大学（現・大阪大学）附属医学専門部在学中にデビュー。同年の『新寶島』(1947 年 1 月）では、その大胆な映画的表現が後の多くのマンガ家に影響を与えた。代表作『鉄腕アトム』、『火の鳥』、『三つ目がとおる』、『ブラック・ジャック』など。1989 年 2 月 9 日没。

石山 透

1927 年 5 月 15 日小樽市生まれ。東京高等学校理科卒業後、熊倉一雄らと前衛劇団を主宰。1959 年の NHK『ピエロが泣いた』でシナリオ作家としてデビュー。1971 年、少年ドラマシリーズ第一作『タイム・トラベラー』（原作・筒井康隆「時をかける少女」）が好評で、オリジナル続編小説『続・時をかける少女』を執筆。1973 年、NHK 人形劇『新八犬伝』、1977 年、時代劇『鳴門秘帖』、1979 年から人形劇『プリンプリン物語』シナリオを担当、いずれも大きな反響を呼んだ。1985 年 12 月 3 日没。

黒沢哲哉

黒沢哲哉スペシャルトーク

「ふしぎな少年」と手塚治虫　テレビとマンガにおける SF 時代の夜明け

2019 年 4 月 13 日（土）午後 6 時～ 企画展会場 入場無料

黒沢哲哉

1957 年東京生まれ。早稲田大学卒業後、出版社で『全怪獣怪人大百科』などの編集に携わり、1984 年よりフリーのライター、編集者として活動。「昭和の子ども文化」「駄玩具」「自販機文化」などの分野で執筆を続け、マンガ原作者としても活躍している。2009 年から手塚治虫公式サイトで、コラム「虫さんぽ」を連載。手塚治虫にゆかりのある町や作品の舞台を訪ね歩いている。初出の雑誌・附録を完全復刻した『カラー完全版・ふしぎな少年』を企画・編集。2018 年小学館クリエイティブより刊行された。

会　　期　2019 年 3 月 23 日（土）～ 5 月 12 日（日）月曜（4 月 29 日・5 月 6 日を除く）・5 月 7 日～ 10 日休館
主催・会場　市立小樽文学館 〒047-0031 小樽市色内 1-9-5（日本銀行旧小樽支店金融資料館向かい）tel.fax.0134-32-2388
入場無料（市立小樽文学館無料スペースにて展示）
後　　援　小樽文學舎